

平成 22 年 3 月 13 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム 平成 22 年 第 3 回講話

恒例の質問

では、恒例の質問を致します。今日は人数が少ないので、ちょっと聞き方を変えてみましょう。

ここ 2、3 日嘘をつかなかった方？

・・・ちょっと少ないですね。

ここ 2、3 日有難うと言ひ、有難うと言われた方？

(・・・沢山手が拳がる) これは結構ですね。

良かったなと思う日が 2、3 日続いている人

・・・はい、有難うございます。なかなか難しいですね。

今日お聞きするのはここまでです。昨日の産経新聞の広告欄に、曾野綾子さんの『三秒の感謝』という本の広告がありました。

50 歳になった時から、私は毎晩一言だけ、「今日まで有難うございました」と言って眠ることにしました。

と書いてありました。曾野綾子さんは独自のものの考え方を持っているので、それを臆面も無く文章にして出している作家だと思います。3 秒間だけ感謝するというのは、悪くはないと思いますし、一生の区切りを毎晩毎晩つけて寝ているのだと感じました。読んでみたいと思っています。

最近氣になったこと

最近氣になりましたのは、生活保護についてです。NPO 法人で、路上生活をしている人に生活保護の申請をさせるお手伝いをしている人達があります。日本の国から見ると、生活保護を受ける人がどんどん増えています。これはちょっと怖いと感じました。日本の国の中で、生活保護を受けさせることが正しいと思っている人がどんどん増えているようですから、結果として、生活保護が相当国の経済の重荷になるだろうと思います。

論語から今を見る

では、論語の解説に入ります。

論語を読む時に、気持ちよくつかえないで読めたら入門編です。次にこの科白は良いという言葉が見つかったら初級編です。中級編は、良いなと思った言葉を現代の言葉に置き換えて、人様に十分納得できるように説明が出来る。上級編は、言葉の中の人物が生き生きと動き出す。スクリーンを見ているような感じで本が読めるようになってきたら上級編です。今、自分はどの段階かなと思いつつ読むとよろしいと思います。

本日の論語の素読は、里人第四 17～26 です。

【十七】 しいわ 子曰く、けん み ひと 賢を見ては齊しからんことを思い、おも ふけん み うち みずか かえり 不賢を見ては内に自ら省みるなり。

あの人のようになりたいなと思わせる有徳の人が、今の日本にいるでしょうか。私は、木内信胤先生が、その人です。皆さんもどなたかが頭に浮かべば、良い人生だと思います。

不賢を見ては・・・と考えると鳩山さんや小沢さんが浮かびますが、その名前を出す自体不快感をもたらすので、一昔前の賞味期限切れの商品を売った赤福や、食品偽装をしていた船場吉兆を思い浮かべると良いでしょう。赤福はその後、私も買いに行き行って食べましたが、反省した後、直そうと努力しているところが認められたのか、繁昌していました。不賢も、ほどほどの不賢がよいですね。手の付けられない人の状況は、自ら省みることをしないでよいでしょう。ほどほどの不賢でよいと思います。

【十八】 しいわ 子曰く、ふ ぼ つか 父母に事えては、き かん 幾諫す。こころざし 志の従したが わざるを見ては、み 又敬して違またけい わず。らう 勞して怨うら みず。

鳩山さんの話ばかりになりますが、お母さんに 1500 万円くれるというのはいけないことだと遠まわしに言えばよい。貰わないで、遠まわしに諫める。それでも 1500 万円ずつお小遣いをくれるのであれば、良くないことだと論争しないで、敬いながらお母さんに分からせるのが良いと思います。憂慮しても心痛めても、親のことは怨まないが良いということです。

考えると、鳩山さんも親孝行をしているのだと思います。1500 万円が寄付金ということなら、お母さんも逮捕されるわけです。贈った方も贈られた方も、罪に問われると思いま

す。しかし贈与であれば、贈った方は罪に問われません。鳩山さん自身は、普通の民間人であれば逮捕されて罪に問われる金額ですが、内閣総理大臣でいる間は逮捕されないことになっています。親孝行しつつ自分も逮捕されないのは、贈与を適応するしかないのです。それをきちんと計算してやったのではないかと感じます。鳩山さんは、「関係者が相談して、これが良いと決めた。贈与であると認定されたので、私は贈与税を払ったのだ」と言っていますが、建て前と頭の中で計算しているものは違うでしょうから、親孝行の証として贈与を選んだのだと感じます。

自分自身が悪さをしてはいけないと思いつつ、両親がどこかで間違えたと思ったなら、遠まわしに諫めるが良い。それが回りまわって自分自身にも返ってくるものだと、現実の世の中の出来事に合わせて読めば良いと思います。

【十九】 しいわ 子曰く、ふ ぼいま 父母在すときは遠く遊ばず。とお あそ 遊ぶに あそ かなら ほうあ 必ず方有り。

父母が存命中は遠くへ旅行しない。旅行する時には、必ず行き先や連絡先を伝えるし、できればすぐに帰れるような所に行くが良い。

両親のことはどうも理屈抜きです。「孝行をしたい時には親はなし」と申しますが、親の年齢になって始めて、「あの時、親が言っていたのはこういうことか・・・」と思いがたることがたびたびあります。それはある程度の年齢にならないと、そう感じないものです。健康でピンピンしていた親が少しずつ弱ってくる。どんなに頑健な人でも、80歳90歳になるとだんだん身体が弱ってくる。そうすると、具合が悪い時にすぐに駆けつけられる場所にいた方が良いと実感で思っています。

【二十】 しいわ 子曰く、さんねん ちち みち あらた 三年 父の道を改むること無きは、な こう い 孝と謂うべし。

三年間の喪中は、家業を継いで父親のやり方を改めない。これは親孝行である。

これは不心得者を止めようということでしょうが、渋沢栄一は『論語講義』の中で、この部分を都合よく解釈していますのでご紹介します。

渋沢栄一の家業は藍玉商でした。半農で藍を生産し、近隣の農家から藍を買い集めて自分のところで藍玉を作って売っていました。お金になるのは一年に一回、もしくは二回なので、なかなか商売が難しいわけです。父親が亡くなる寸前に、「お前がいてくれば、何も心配することはない」と渋沢栄一に言って亡くなりました。当然、渋沢栄一の頭には論語のこの科白が当然浮かんだでしょう。しかし家業を継ぐことになっている自分の妹の

婿は商売には向いていないと見越して、藍玉商を廃業して農家を続けるように妹の婿に言いました。父親は当然、家業が倒産する道を選びはしないだろうと考えたわけです。その後、藍玉を扱う商売そのものが時代の流れで急激に悪化しましたので、先見の明があったと言えます。

渋沢栄一は自分の体験から推して、「三年間喪に服して何もしてはいけないということではなく、親の心の奥底にある気持ちを推察して、改めるべきは改めるが良い」と書いています。が、かなりこじつけだと思って読みました。

【二十一】 しいわ 子曰く、ふぼ とし し 父母の年は知らざるべからず。いつ すなわ もつ よろこ 一は則ち以て喜び、いつ すなわ 一は則ちもつ おそ 以て懼る。

両親の年は知っていなければならない。一つは長命を喜び、もう一つはいつ亡くなるか分からないことを懼れる。

先ほども申しましたように「孝行をしたい時には親はなし」です。今のご時勢で気になるのは、若干お金がある親だったら、亡くなる前に相続に関してきちんとしておくのも親孝行の一つではないかと感じています。

【二十二】 しいわ 子曰く、いにしえ げん これい 古者、言を之出ださざるは、み およ は 躬の速ばざらんことを恥ずればなり。

昔の人が口数が少ないのは、自分が言うほどは実行出来ないと分かっているからである。

「りんげん 綸言汗の如し」という言葉があります。天子が口に出した言葉は、最初は細い呟きのような言葉でも、下々に下りてゆくと、だんだん太いものになる。君子の言葉は取り消しがきかないという意味です。

翻って普天間基地問題です。5月には県民にも良い・アメリカにも良い・日本国民全体にも良い結論を出すと言っていますが、これは苦しいだろうと思います。鳩山さんは学者だそうですから、普通の人には分からない頭の構造をしている人だと何かで読みましたが、そこらへんが5月には明解になると思います。さすがだということになるのか、その場限りの言い逃れを言ったのか、5月は見ものです。ですから鳩山さんが退陣する時は、基地問題の責任を取るのか、小沢さんを辞めさせる引き換えにするのか、参議院選挙で負けて引退するのか、どこかで引退しなければならないように、自分で自分を追い詰めている。言わなければ良いものをどんどん言っているから、その責任だと思います。鳩山さんも時々こういう昔の言葉を噛みしめる癖があれば、軽々しい言い方はしないのだろうと思い

ます。そのあたりは国のトップとしては残念です。

【二十三】 しいわ やく もつ これ うしな もの すくな 子曰く、約を以て之を失う者は鮮し。

約とは、心を引き締める。控え目にすることです。

世の中生きていく上において、控え目にしようと氣をつけていれば失敗は少ないだろう。

先日おみくじを引いたら凶が出ました。これは控え目にしなさいということだと思いました。あまり他所に行って出しゃばらないようにと自戒をしています。

【二十四】 しいわ くんし げん とつ こう びん ほつ 子曰く、君子は言に訥にして、行に敏ならんことを欲す。

あまり軽々しくものを言わない。しかし、行いは敏捷である。そういう人が良い。

孔子は自分が世に出ることは思い通りにいかずに、自分の願いは挫折しました。その結果、弟子を教育しようとなりました。三千人のお弟子さんを教育し、孔先生に教わったエリートであれば我が国に招いて大臣にさせたいと思われる風潮を作り上げたわけです。

その孔先生曰く、各国の重要なポストに就きたい者は、軽々しくものを言わず、しかし素早く成果は上げなさい。そうすれば希望する国の大臣になるのは比較的早いだろう、と読めばよいでしょう。まだ浪人の身である者が、自分が勤めたい国に仕官する為にはどうしたらよいかということが常にありますので、そこらへんを意識して読まれるとよいでしょう。

この言葉を見ると、猪瀬常任理事を思い出します。訥弁で、会議などでもあまり喋らない。最後の方にずっしり利くような言葉を喋ります。口が重いから行動はゆっくりだろうと思っていると、神出鬼没で行動は素早い。

論語に書かれた文章を周りの人や自分自身に当てはめて汲み取れば、論語が更におもしろくなります。

【二十五】 しいわ とく こ かなら りん あ 子曰く、徳は孤ならず、必ず鄰有り。

道徳を実践している人間は、孤立しない。必ず理解者が生まれる。そう信じて実行するがよからう。

道徳を実践する党ならば孤立しない。そういうことであれば、民主党は連立政権を維持できるでしょうが、そのうち社民党はだんだん離れ、代わりに公明党が寄ってくる流れで

しょう。

孤立しないで必ず理解者が周りから現れてくる。自分の行動を考えながら、これを読むとよろしいでしょう。

【二十六】 し ゆういわ きみ つか しばしば ここ はずが ほうゆう しばしば ここ 子游曰く、君に事へて 数 すれば斯に 辱 しめらる。朋友に 数 すれば斯 うと に疎んぜらる。

北海道の教職員組合で考えてみましょう。例えば、自分達の納めた組合費がどうなっているか、たまたま聞いてしまった。組合員の中に、これは良くない事だから止めようとする人が、誰か一人くらいいいものか想像しました。例えばその人が組織の中でしばしば言うと、だんだん周りから嫌がられて職を追われるようになる。こういうことは世の中によくあることです。

以前もお話しましたが、私の友人で会社を経営している人がおりまして、その人に、「今のやり方では会社が潰れる」と会うたびに助言していました。誠意を込めて熱心に言えば言うほど、相手は怒ってしまいました。なぜ怒るのか、その時は分かりませんでした。結果としてその後会社は潰れてしまいました。もう少し別の言い方があったのではないかと反省しています。皆さんも友人・知人に何か諫めるようなことをいう時には、余程氣を遣って、相手の氣分を損ねないように遠まわしに柔らかく諫めるのが良いでしょう。

事上磨練

本日紹介する本は、『脳に悪い7つの習慣』（林成之著 幻冬舎新書）です。人間には本能として、知りたい・生きたい・仲間になりたいという欲求があるそうです。この3つが脳の基本的な三大欲求だそうです。それらをつき合わせてゆくと、世の中の役に立って、自分の知りたいこと・やりたいことをどんどんやってゆくということになります。マイナスの言葉を言うと、脳はそこでストップする。ですからマイナスの言葉は言わない方が良いでしょう。この脳の仕組みは、中村天風先生の書かれたものと非常に似かよっていました。表現方法が違うだけです。

事上磨練で、自分が今やっている仕事が、世の中の役に立っているという実感が出来れば、どんどん自分自身はレベルアップします。事上磨練とは、自分の仕事・日常生活の中で自分自身を磨くこと。これが陽明学そのものだという教えです。それは、世の中の役に立っているという実感があれば、どんどん磨きがかかってくるとご理解戴きたい。

これからの日本をどう生きるか

3月27日の春季合同フォーラムで、「実践哲学者・山田方谷」という演題でお話させていただきます。人生には節目があります。山田方谷にも節になるものがあつたはずですが。その節目になったものは何か、少しずつ考え始めています。節目とは人生の岐路です。

人生の岐路に関して、電力王と言われた松永安左衛門が良いことを言っています。人生には3つの大きな岐路がある。一つは、大病を患って、死に直面した時。二つ目は投獄された時。三つ目は倒産をした時、或いは会社を辞めさせられた時だそうです。確かに倒産をすると、仲間がどんどんいなくなる。さっと人が去っていきます。

この3つの岐路は、人間の器が大きくなる時です。この3つを体験すれば、人間として本物になっていくということですが、しようと思って経験できるものではありません。

自分で意識的にできると思ったことがあります。自分自身で創業した時のことを考えると、どうにもならないくらいお金がありませんでした。しかし夢と希望がありました。今、私の頭の中には夢が沢山あります。皆さんも5年後花開かせる夢、10年後花開かせる夢というものを、ところどころに置いておくと良いと思います。

これから5年間くらいは、日本の国は滅茶苦茶になります。今年は経済がまだまだ悪化をします。来年は更に酷くなります。世間で言う、景気の二番底です。来年が経済悪化の正念場だと思って準備をしておくのが良いと思います。

外国から見ても、日本という国はかなり酷い状況だと思われています。政府がデフレを宣言したり、平成23年度の日本の借金は1244兆円という試算を、昨年の自公連立政権当時の政権与党が公表しています。又、最近の個人向け国債は急激に売れ行きが落ちていきます。ピーク時は7兆円くらい売れたのに対して、1兆円売れるか売れないかです。だんだん世の中がおかしくなっていることは、こういうデータにも表れていると感じます。

そのように色々な指標で、来年、経済悪化で国がどうにもならない状況になると公表しています。ですから来年は、相当腹をくくって動かなければならないだろうと思います。ただその時の自分自身を考えて、体力・氣力を旬にもっていけば、どんなものも跳ね返せると思います。どうぞ自分自身の体力・氣力、更に知識・見識・胆識という知力を充満させておくことが、来年を生き延び、更に発展させてゆく時の大きなポイントであると思います。

新たな芽

最後に、明るい話を少し致します。最近、名古屋市はおもしろいと思っています。河村市長は自分の給料を削って、年収 800 万以上は貰わないと言いました。その勢いを駆って、無理矢理議会を通して市民税の 10%減税をしました。

他の自治体でも同じような動きがないかと思っていましたら、今朝の新聞で、杉並区が住民税を 10%下げるという目的で 10 億円の基金を作るという議案が議会を通ったとありました。

意外と国会は動かないけれども、地方の政治家さん達は自分の身を削って税金を減らそうという動きに入ってきているという点で、日本もまんざら捨てたものではないと感じます。山田方谷も、減税をすることが財政再建・国家再建の最大の道であると言っています。木内信胤先生も同じことを言っておられました。そういう芽が地方で出てきていることに拍手喝采致して、本日の講話は終了と致します。有難うございました。